

- (c) 特定地域、すなわち南半球および熱帯地域における大気化学研究計画を強化する。
- (d) それぞれ異地域に属する大気化学研究グループ間の共同研究を促進する。
- (e) 特に大気化学研究計画の推進に着手しようとする諸国に属する若手の大気化学者に対する教育訓練計画を立てる。

(2) IGAC 計画に対する CACGP の構想を IAMAP, IUGG および ICSU 地球圏変動計画運営委員会に申し入れ、地球圏変動計画との間で今後の作業の調整をはかる。

(3) 1987年8月カナダのピーターボローで開かれる第6回 CACGP 大気化学シンポジウムにおいて、IGAC 計画に関する小作業会合を持つ。この作業会合は IUPAC (国際純正応用化学連合) 大気化学委員会と共催で開き、(i) 全球分布と変動傾向、(ii) 生物圏および地表との交換過程、(iii) 気相光化学、(iv) 多相反応過程、(v) 理論的研究およびモデル構築などにおける現在の問題を概観しつつ、化学と気象学の双方の観点から発表と討論を

行う。特に上記5項目のうちどの部門が国際的な組織研究を必要としているかを概観することを目的とする。大気化学のコミュニティに対し討論の場を提供し IGAC 計画として取上げられるべき諸課題について大いに議論をしようとするものである。

(4) 1988年オーストラリアのメルボルンで1~2週間の作業会合を持ち、IGAC 計画の正当性、目的、計画実施要綱を詳細にわたり明らかにする。具体的な研究計画は、地球大気化学システムを理解するうえで基本的に重要な諸領域、および国際協力を必要とする実験の設計と遂行とに焦点を合わせる。

(5) IGAC 計画における国際協力研究計画の将来構想がメルボルンの作業会合で合意を見れば、その組織化と方向づけは CACGP の指導と責任で行う。

CACGP は IGAC 計画の国際的性格をここであらためて強調し、すべての国、すべての参加者による科学的卓抜性の育成と本計画への活発な参加を大いに奨励するものである。

(東京大学理学部 小川利紘)

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

国際学術交流事業(天気32巻5号参照)の一環として、国際学術研究集会への出席の旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

### 記

#### 1. 対象の集会

A: 昭和62年6月1日~11月30日

および

B: 昭和62年12月1日~昭和63年5月31日

の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究会に出席し、論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

#### 3. 募集人員

若干名

#### 4. 補助金額

年総額30万円(昭和61年度の金額)

#### 5. 応募手続

所定の申請書類(日本気象学会事務局備付)を期日までに国際学術交流委員会(東京都千代田区大手町1-3, 〒100 気象庁内日本気象学会気付)に提出する。大学院生は指導教官の推せん状を併せて提出する。

期日:

A 昭和62年3月20日

B 昭和62年8月31日

#### 6. 補助金受領者の選考・義務

国際学術交流基金運用の方針に基づいて行う。